

2015.MAR

電子  
今

わが手は翼われは鳥 弾射音

死者の宴 栗林元

機械恐竜現る! の作り方 murbo

無料  
FREE

4

# 不死の宴

(一) 承前

栗林元

Kuribayashi Hajime

湖月荘の中に入る如月の背中を見送ると、竜之介はトヨダAのリヤシーツに戻りドアを閉じ、「分室に戻ろう」とハム彦に告げた。

「兄さん、如月さんは学者さんと聞いていたけど印象違いましたね」

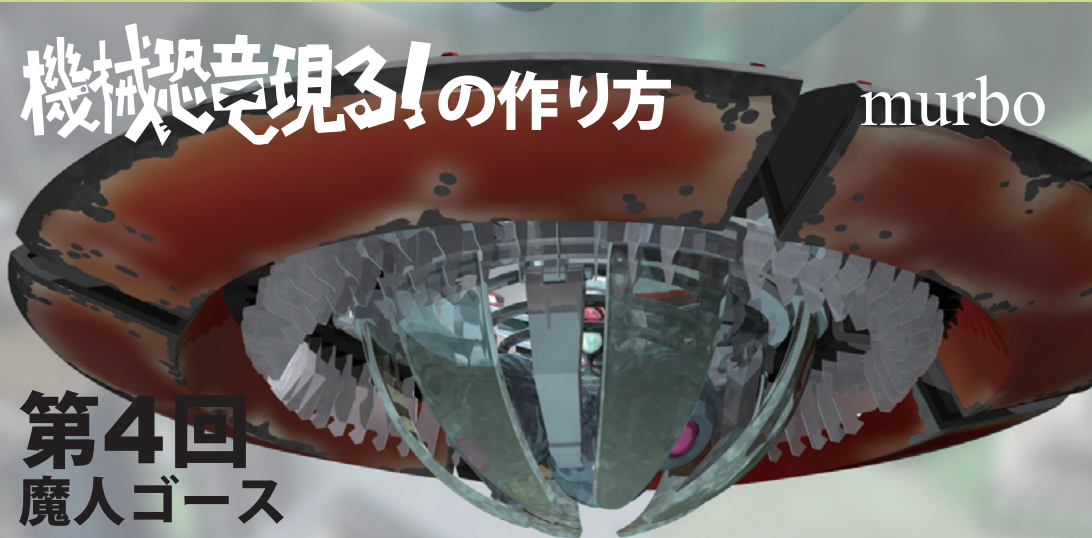
続きを読む

機械恐竜現る!の作り方

murbo

第4回  
魔人ゴース  
とは何か

続きを読む





つぎの週の、月曜日。

登校して、朝礼のために校庭にならんだとき、信也は哲郎のことを考えてはいなかった。

友だちがレンタル・ビデオで見たアニメ映画の話をするのを聞きながら、学校まですつと歩いてきたのだった。家を出るまでは、哲郎のことを考えていた。よくおぼえてはいなかったけれど、空を飛ぶ夢も、ひよつとしたら見たかもしれない。でも、そのときはまだじぶんが見てない、見なければ一生のあいだ後悔しそうなほどおもしろいアニメのことで頭がいっぱいだった。

続きを読む



薔薇の刺青  
栗林元

発売中!



<http://www.amazon.co.jp/dp/B00RQ5LMQ8>



パッチワールド

弾射音

発売中!



<http://www.amazon.co.jp/dp/B00O5WSU7E>



つぎの週の、月曜日。

登校して、朝礼のために校庭にやらんだとき、信也は哲郎のことを考えてはいなかった。

友だちがレンタル・ビデオで見たアニメ映画の話をするのを聞きながら、学校までずっと歩いてきたのだった。家を出るまでは、哲郎のことを考えていた。よくおぼえてはいなかったけれど、空を飛ぶ夢も、ひよっとしたら見たかもしれない。でも、そのときはまだじぶんが見てない、見なければ一生のあいだ後悔しそうなほどおもしろいアニメのことで頭がいっぱいだった。

だから、朝礼が終わって教室にはいったとき、めずらしく哲郎の席が朝からふさがっていることをふしぎとも思わなかったし、すわっているのがだれであるかにも気がつかなかった。

ランドセルをおろして、信也は自分の席についた。哲郎の席にすわっている男の子は、うつむいて本を読んでいた。

横顔が見えた。

——哲郎だった。

信也は心臓が口からとびでるほどどきどきとした。

とつさに、ランドセルのなかみをまさぐるふりをして、目をふせた。

でも、哲郎は本から顔をあげたりはしなかった。

本いいのなにも、哲郎は見えてはいなかった。

チャイムがなり、先生がはいってきた。

授業がはじまる。

信也はどきまぎして、ろくに先生の話聞いていなかった。ときどきちらりと、哲郎をぬすみ見た。哲郎の目は教科書とノートと黒板を行き来するだけだった。その手ににぎられたえんぴつが、さらさらとノートの上を動いていく。

休み時間。そして、また授業。哲郎は席を立たず、

先生に指されたとき以外はなにもしゃべらず、そこにすわりつつけていた。

休み時間。授業。休み時間。授業。そして、給食。

大好きな黒パンが出たが、信也はちつともうれしくなかった。

哲郎は信也のほうをふりかえろうともしない。

ふたたび、授業がはじまる。

いつそのこと、さっさと哲郎がふりかえってこっちをにらんたり、休み時間に近づいてきて声をかけたりしたほうが、うんと気が楽だと、信也は思った。朝からずっと、このあいだのことでのうしろめたさや、哲郎になにをどう話したらよいかという不安を感じたままなのだ。

壁にかかった時計の針の動きが、いつもよりのろいような気がした。

最後の休み時間。哲郎はやはり、近づいてきたりしなかった。トイレへ行ったのか、しばらく姿を消したと思うと、チャイムがなる寸前に教室へもどってきた。うつむきかげんに、なにか考えごとをしているかのような表情で歩いてきて、自分の席につく。哲郎のほうには目もくれなかった。

信也はずぶぬれの犬のような、みじめな気持ちになつた。

おねがい、たとえ怒るのでもいい。なにか、話しかけて。信也はそう思うようにすらなつた。

やつと、六時間目が終わった。

とうとう、哲郎はきょうの授業を全部受けたのだった。そのあいだ、しゃべったのはほんのすこしだけ。先生に指されたとき、そつてなくこたえを言うだけだった。

反省会がはじまる。きょうはガキ大将の健一がだれかとけんかしたり、その子分たちが女の子をいじめたりしなかったのだ、あつというまにおわってしまった。さいごにそうじ当番の確認をして、みんなは立ち上がった。

信也はそうじ当番だった。哲郎は当番からはずれていた。

みんなで机をうしろに移動させたあと、哲郎がランドセルをしょって教室を出ていくのを見て、

4

わが手は翼  
われは鳥

弾射音  
Dan Shannon

信也はぼつとした。けつきよく、哲郎は信也のことなどなんとも思っていないかつたのかも知れない。子分になれと言いつたり、催眠術をかけようといつたりしたのも、ほんのきまぐれだったのかも知れない。

あしたからのことを考える、すっかり元気にはならなかったが、信也はなるべく哲郎のことを考えないようにして、器具庫からホウキをとりだした。

きょうは塾がある日だ。いそがなくちゃ。信也はてきばきとそうじをはじめた。

塾へ行くとちゅうの道で、本屋の前を通りかかった。

きょうがマンガの雑誌の発売日だということを思い出した。

通りすぎてから、信也はその店先にひきかえした。ちよつとだけなら、道草をくう時間はあった。

信也は店先のたなからめあてのマンガ雑誌を取ると、パラパラとページをめくつてみた。そこで少しよかった。今月のおこづかいはいもうあまりのこつていない。それに、あまりマンガ雑誌を買つと、むだづかいだと言つてママにしかられる。でも、どうしてもお気に入りのマンガのつづきが読みたくつてしょうがなかった。

クラスのだれかに借りることができればいいのだが、最近ば先生のチェックがきびしくて、なかなかマンガ雑誌を持つていくことができないので、借りられるかどうかかわからない。ぼやぼやしていると売り切れてしまう。信也はすこし考へてから、けつきよくマンガ雑誌をもつて店のなかへはいつていった。

店の奥から、だれかがひどくせきこむ声が聞こえてきた。

まるで洞くつの底からひびく、おそろしいけもの

の声のようなふい音だった。

信也はなにげなくそのほうへ目をやつた。

……相沢哲郎が、むずかしそうな本がならぶた

の前で本をひろげてながめていた。

哲郎は本をべらべらとめくりながらも、ときおり

体をふたつに折つてせきこんでいた。せきをするた

びに、ものすごく苦しそうな顔をした。信也はあつ

けに、それと知らずそれをながめていた。それから、塾

へ行くとちゅうだったことと、哲郎に見つかつてま

たことと話しかけられてはたまらないと思い、あ

わてレジへ行つてマンガ雑誌をさした。

雑誌を紙袋につつんでもらい、お金をはらつて

りかえる。

哲郎が本を手にして、すぐうしろに立つていた。

「よお、吉田じゃないか」

哲郎はたちまちにやりと笑つてみせた。

「なにを買つたんだ」

「ま、マンガ」

信也がそうこたえようと、哲郎はけたたましく笑つた。

「でも……」

「バレやしないさ」

哲郎がますますこわい目でにらみつける。信也は

とほうにくれながらも、けつきよく店の前で哲郎が

でてるのを待った。

哲郎が本のつづみをかかえながら出てくる。信也

が待っているのを見ると、またニヤリとしてみ

せた。

「ぼ、ぼくやつぱり塾へ行くよ」

信也がそういうと、哲郎はまた目をつり上げた。

「まだそんなこといつてるのか。このいくじなし！

やつぱりママがこわいんだな。五年生にもなつて

まだママがこわいのか。あはははは！」

信也はムツとした。いくら哲郎にでも、やはりバ

カにされたくはない。哲郎には親しい友だちがい

ないから、学校で言いふらされることはないかもし

ないが、それでもおもしろくなかつた。

信也も目をつり上げて哲郎をにらみかえした。

「行くよ。行けばいいんだろ」

「よし、それでこそおれの子分だ」

哲郎が笑顔になる。そのままさきに立つて歩き

だし、信也はそれについていった。塾をサボつたこ

とはこれまでいぢどもない。ママにばれるかもし

れないと思つとつうる髪をひかれるような気がし

たが、それでも真一文字にむすび、目をつり上げ

たまま哲郎

についていった。



# 不死の宴

## （二）承前 第二一回

栗林元  
Kuribayashi Hajime

前回までのあらすじ

昭和十八年九月、理化学研究所の病理学者・如月一介は陸軍の招聘で長野県上諏訪町にやってきた。「ミ号計画」に参加すべく陸軍第九技術研、通称登戸研究所諏訪分室に呼ばれたのである。駅で出迎えた守矢竜之介から如月が聞かされた「ミ号計画」とは、古代から諏訪地方に続くミシヤグチ信仰に由来する国防研究であった。

湖月荘の中に入る如月の背中を見送ると、竜之介はトヨダAのリヤシートに戻りドアを開き、「分室に戻ろう」と公彦に告げた。

「兄さん、如月さんは学者さんと聞いていたけど印象違いましたね」

ホテル入り口のロータリーから湖岸道に車を進めながら公彦が言った。

「彼は、俺と同じで、まだ二十代だよ。東京帝大では空手部で、富名腰先生の指導を受けたという猛者だよ」

「へえ、意外だなあ、役者にしても不思議じゃない優男なのに。映画俳優の岡田時彦みたいじゃないですか」

公彦の言葉に苦笑しながら、「石井軍医少将によると風土病の研究では如月さんは新進気鋭の若手らしい」

「そうか、兄さんの民俗学と如月さんの医学で、ミ号計画も学問的な体制が整いましたね」

「ようやく、俺たちが守ってきたミシヤグチの力に科学のメスを入れることができるよ。俺は、ミシヤグチ信仰を解き明かすために民俗学を志した。ただ、近代戦争でミシヤグチ兵を運用するにはそれだけでは足りないんだ。如月さんを迎えて、ようやく研究の両輪がそろった気がする」

そう言っただけで、座席の背もたれに背をあずけ諏訪湖を眺めた。竜之介は軍に入る前に、神長官の縁で國學院に進学し、折口信夫の門下で民俗学を学んでいたのだ。

「今に長老たちもわかってくれますよ」と公彦が言った。

「俺たちも変わらざるを得ないんだ。ミシヤグチもいつまでも稀人のままではいけないんだよ」

車は湖南町にさしかかった。もう岡谷に近い。諏訪神社の上社を東に見てその背後の守屋山を望むことができる。湖岸に木造二階建ての病院のような建物が見えてきた。白ペンキに塗られた羽目板壁が九月の日差しで明るく見える。サナトリウムのような印象の建物だ。ただ、周囲を二メートルほどの高さのもののしい煉瓦壁で囲まれている、接近するとかえって中は見えなくなる。施設の入入口には左右にコンクリートの門柱があり、トーチカのような守衛所の小屋には陸軍の制服を着た兵が常駐していた。

門柱には、「陸軍第九技術研究所諏訪分室」という文

字が書かれた札が下がっていた。

車で門を過ぎると、立証していた兵士が竜之介の顔を見て車に駆け寄った。いつもは敬礼だけに入れてくれるのと思うと、駆け寄った兵士が、「研究室で事件が、急いでください」と言った。

竜之介は、はっと顔を緊張させ、「中庭まで車を回せ」と公彦に言った。

はいっ、と言った車を発進させ、「何だろう」といぶかしげに咬いた公彦に、「近藤君かもしれない」と竜之介

「彼はまた昏睡中では」

「今朝、蘇生の兆しがあった。今夜あたりかと思っていたが」

「まだ、日没前ですよ」

「ミシヤグチが降りずに、悪いのかもしれない」

その言葉を聞いて公彦が息をのんだ。

諏訪分室は病棟のような二階建ての木造建屋が東西に二つ平行に並んでいる。その建物の間が中庭になっていて、芝生と花壇で飾られている。紡績工場の跡地を接収改造したものであった。

その中庭に車を止めると、二人は建屋中央、二棟をつなぐ渡り廊下から南棟に駆け込んだ。

一気に騒然とした空気が押し寄せてきた。廊下の西側奥から、怒号が聞こえてきた。パン、パンと二発拳銃の発砲音がする。廊下を駆けて現場に向かう。一番奥の部屋のドアが開き、そこで三人の衛兵が銃を構

えて部屋の中をうかがっている。一人が立位、一人が膝立ちでそれぞれ九九式小銃を構え、もう一人は中腰で、十四年式拳銃を構えている。

拳銃を構えていた衛兵が、駆けつけた竜之介を見て、安堵の表情を浮かべ、「守矢少尉、近藤が、近藤が」と言った。

部屋の中をうかがうと、今朝見たときはカーテンを締め切り日光を遮断していた部屋が、そのカーテンが大きく裂けて陽光が差し込んでいた。竜之介がまず目にしたのは、床にうつ伏せた看護婦だった。不自然な角度で首が曲がり、子供が床に放り投げた人形のようにだ。喉元に黒い二つの穴が見え、その周囲が赤く鬱血していた。

その奥の壁に二人の看護婦が腰が抜けたように座り込み、両手で口を押さえて悲鳴をこらえながら、わなわなと震えている。

ふいごのような荒い息と、ぐるぐるのどを鳴らすような音がして、大きな人影がその看護婦たちの前を横切った。

今朝まで昏睡状態だった近藤上等兵だ。いや「だった」といったほうがいいだろう。むき出しの上半身は獣のように毛に覆われ盛り上がった筋肉が岩のようだ。下半身は大きく屈曲し、下肢は足首から先が延びて獣脚状になっている。

「ああ、」と竜之介の喉からうめくような声が洩れた。

近藤だった獣が、竜之介を振り返った。顔はまだ大きな変貌は起きていないが、上下の顎に兆しがある。歯牙が大きく成長し、大きく開いた口からは唾液が糸を引いて垂れた。

（獣人化現象 ※四）  
「ソアントロビー」

振り向くと、公彦と並んで、若い女が立っていた。妹の守矢みどりだった。もんべではなく、きつちりと男物の国民服を着て髪は短くまとめている。竜之介と公彦は陸軍の軍人だが、みどりは軍に雇われた民間人の軍属として諏訪分室に常駐している。右手に大きな信玄袋を下げていた。

「窓の外側も衛兵で固めてる。銃は効かないけど、さすがに撃たれるのは嫌みたいよ」

「近藤君の意識は」と言う公彦に、みどりは「獣化してる。もう対話は無理だった」と言った。

「姫なら押さえられるかもしれない」という公彦に、「彼女が目覚める日没まで、まだ三時間はある」と竜之介。

「看護婦がいるから、あんまり銃も使えないの」

「俺たちでやるしかないか」と公彦。

「そう思っ、はい、防具」とみどりが手にした信玄袋を示した。公彦が苦笑いしながら、「ミシヤグチ憑きと戦う守矢氏の者って、何代ぶりかな」と言った。

竜之介は、信玄袋から革製の防具を出して公彦に渡ししながら、「これで、俺たちの代は、長老たちより経験は豊富って事になる。死ななければけどな」と言った。

公彦も竜之介も素早くジャケットを脱ぎ捨てると、慣れた手つきで防具を装着していく。手首から二の腕にかけて、胴周り、肩と胸、臍当ての部位に革の防具を巻き付ける。最後に分厚い帯のような首当てを装着する。剣や刀ではなく獣の爪や牙から身を守る防具であった。最後に二人は一振りの日本刀を背中にして、右肩から腕を回して抜刀できるように斜めに背負った。映画に出てくる忍者のようである。

「よし、行こう」

竜之介はそう言っ、部屋の中に踏み込んだ。公彦が無言でその後に続く。

部屋の中には獣臭い匂いが充満していた。学校の教室ほどの広さの部屋で、窓側のカーテンが裂けて落ちている。窓の外には部屋に向かって小銃を構えた衛兵がいるのが見えた。窓は数発の弾丸の貫通した痕があったが、空襲に備えて破片が飛ばないようにテープで養生してあるため、ガラスが割れてしまうほどではなかった。先ほどの銃声はこれだろう。

獣から目を離さず、ゆつくりと歩を進める。棚が倒され、薬品の入ったガラス瓶、ビーカーや試験管が床

に飛び散り、足を降ろす度に靴の下でチリチリと音を立てた。

近藤が寝ていた寝台は裏返しになっていた。体を拘束していたはずの帆布のベルトは、千切れた端が残っているだけだった。

獣は、竜之介と公彦に向かい、長い吠え声を浴びせた。狼の遠吠えそっくりだった。

## 不死の宴 続く

※一 石井軍医中將。関東軍防疫給水部本部初代部隊長。

※二 折口信夫。民俗学者、文学者。

※三 稀人。時を定めて他界から来訪する霊的もしくは神の本質的存在を定義する折口民俗学の用語。

※四 ソアントロビー。(zoanthropy) ライカンスロビー (lycanthropy) の *lyca* (lukos=ギリシア語で狼) の部分を *zoa* (zoon=ギリシア語で動物) に置換えた造語。ギリシア神話のリュカオーン王 (呪いによって狼に変身した) に由来する言葉。

この物語はフィクションであり登場する地名・人名・企業名はすべて架空のものである。



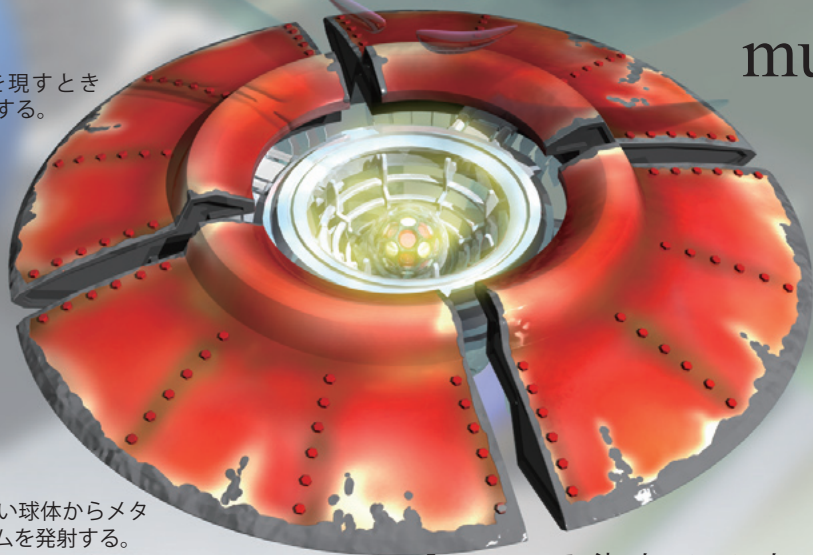
# 第4回 魔人ゴース とは何か

# 機械恐竜現る!

## の作り方

murbo

ゴースが姿を現すときは円盤が展開する。



円盤下部の赤い球体からメタビーストビームを発射する。



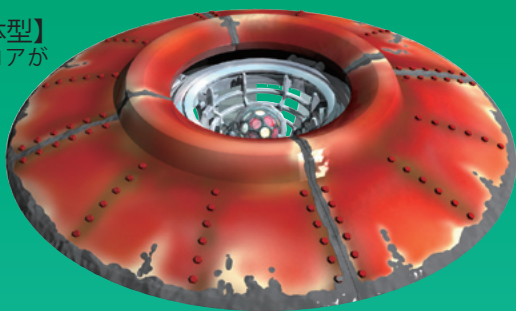
## 【宇宙魔人ゴース】

宇宙に散らばる物事の反射が集積したガス状の物体。その中心には世の全ての全てが正であれば負、善であれば悪の気質が集中する重力がある。集まった気によってゴース自体のありかたが決定するため、殆ど多数の人々にとって常に敵対する存在になる。

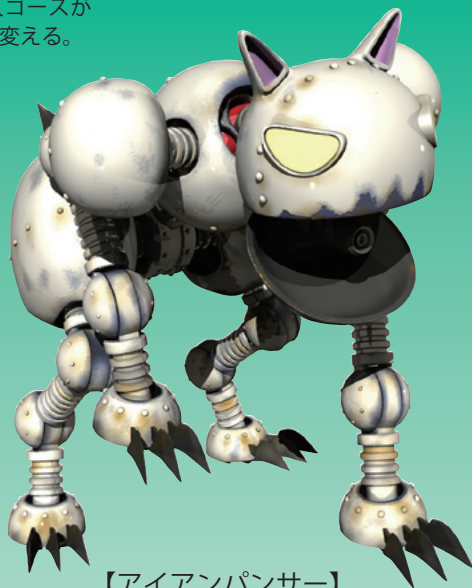
ガス状のままでは自由に行動出来ないで、自ら金属で作った移動装置に入っている。



【魔人ゴース飛行体型】  
センターにアイアンコアが  
鎮座する。



【アイアンコア】  
これを使って魔人ゴースが  
生物を機械怪物に変える。



【アイアンパンサー】  
豹とアイアンコアを融合させて誕生  
した機械生命体

ガス状態を維持出来ない惑星などに行っ  
た時の保護カプセルの役目も果たす。

この移動装置に現れる、所謂ゴース的な  
形は実体では無く、見る人にこう見えて欲  
しいと期待する形の総合したものになっ  
ている。しかし、地球上では空気と重力の影響で、あ

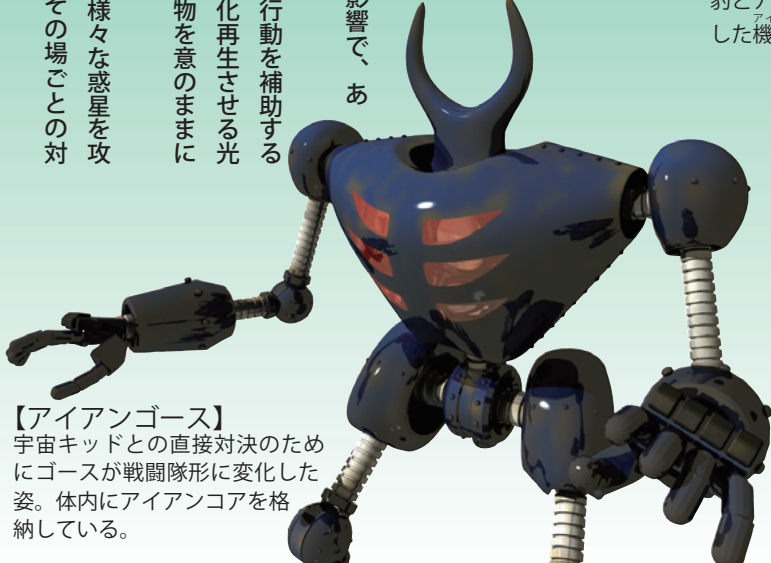
る一定の形でしか表現する事が出来ない。

移動装置は直接行動の取れないゴースの行動を補助する  
役目も果たす。生物を機械生命体として強化再生させる光  
線であるメタビーストビームを発射し、生物を意のままに  
操る。

銀河パトロールはゴースの存在について様々な惑星を攻  
撃する者としてしか認識出来ていないため、その場ごとの対

応、ゴースとその配下のモノを迎撃し  
ているに過ぎない。しかし、ゴースを  
地球に追い詰めた宇宙キッドによって  
ゴース自体が戦闘体形であるアイアン  
ゴースになり破壊されたため、結果的  
にゴースが実力行使出来なくなった。

【アイアンゴース】  
宇宙キッドとの直接対決のため  
にゴースが戦闘隊形に変化した  
姿。体内にアイアンコアを格  
納している。



# 弾射音既刊本

## パッチワールド

人格シミュレーションとなった村田は独自の理論を実証するため、恒星間宇宙船を乗り取りヒアデス星団で実験を再開する。地球を破壊した謎の結晶体による地球再生の可能性を突き止める。……クリス・ボイスの名作『キャッチワールド』へのオマージュ。第一回 SF 新人賞候補作を加筆。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00O5WSU7E>



## クラフトロン 弾射音短編集 SF 編

「クラフトロン」…夫のテリーは旅先の地球で他の観光客もとも消息を絶ち、私は軍人として捜索を命じられる。変異に地球は飲み込まれ、私はついにテリーの真実を知る……。他三篇。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MP4I8JE>



## 今度、死ぬことになった 弾射音短編集 ミステリ編

「今度、死ぬことになった」…私は大学時代の友人から、「今度、死ぬことになった」という文面の手紙を受け取る。そして死んだ。彼は恨みを持つ女のマンションに爆弾を仕掛けたと遺言を残す。……他二篇

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MOZXM22>



## 理由なき朝食 弾射音ショートショート集 Vol.1

夜中の三時、ママはぼくをいきなり起こす。真顔で朝食を食べなさいと言うのだ。パパとお姉ちゃんはパニックだ。そのうちに、みんなは泣きながら真夜中の朝食を始める……。他 24 編

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MUQJGT8>



## ぱおにゃん？ 弾射音ショートショート集 Vol.2

暇だったので、象と猫のハイブリッドを作ってしまった。巨大な象猫は元気に「ぱおにゃん！」と鳴く。妻は今すぐ捨ててきなさいと言う。ぼくはいったいどうしたらいいのだろう？……他 24 編

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MW4ZC78>



## デイズ・オヴ・ホミサイド

殺人が犯罪ではない近未来。簡単に殺し合う人々。加藤芳雄はある日、吉田美枝子を地下鉄内で殺す。政府のコンピューター内に蘇った吉田美枝子は、逆に芳雄を殺そうと反撃に打って出る。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MKDQSLA>



## 彼女の手の中のバービー

彼女はいきなり僕の顔に化粧をした。僕は彼女の手で、どんどん女になっていくー美人女子大生と女装少年の、奇妙な愛のかたち。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00GWY6ISQ>



## レイルウェイ、ターミナル、そして故郷へ

僕は棺桶職人。ある日、大変なことに気づいてしまう。いどうが手許にないのだ。人は、いどうるなしでは人は生きていけない。僕は、いどうるを取り戻すため、故郷へ向かって旅を始める。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00MKCJPR0>



## 栗林元既刊本

### 薔薇の刺青（タトゥー）／自転車の夏

日本人と結婚して永住権を手にしたマリアンは、どこへ消えたのか。昭和六十年の名古屋市を舞台に、外人タレントプロダクション、偽装結婚、など、裏社会を描いたハードボイルド作品。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00RQ5LMQ8>



### 神様の立候補／ヒーローで行こう！

西本は広告会社の営業。彼に下された使命は、新聞用選挙広告を法定回数五回分を全て東海新聞の扱いで獲得すること。ところがその候補者は、「龍神様のお告げで立候補を決意した」というお婆あちゃんだったのだ。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00IB9F4OE>



### 1988 獣の歌／他 1 編

気がつくと、「獣」は新生児の心の中にいた。今まさに殺されようという瞬間だった。間一髪、肉体から抜け出した獣は、少女の心に飛び込んでいた。しかし無理な跳躍で、多くの記憶を喪失してしまう。他 1 篇

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00KK5I61U>



### 盂蘭盆会●●●参り（うらばんえふせじまいり）他 2 編

18 歳を目前にした仁は「明日のお参りにはお前も来なさい」と、父から告げられる。話によれば長男は兄弟の中でも比較的早く「お参り」に連れていかれるのだという。果たしてそのお参りとはどのようなものなのか。他 2 篇

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00NCD05MK>



## murbo 既刊本

### 宇宙キッド 怪獣図鑑 魔人ゴース編

架空の連続 TV アニメーションである、宇宙キッドに登場する敵怪獣などをカード風のレイアウトで紹介する図鑑。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00EM4ST80>



### 宇宙キッド 怪獣図鑑 ドーモル団編

架空の TV アニメ、宇宙キッドに登場する敵怪獣のカード風のデザインで紹介する図鑑。第二巻

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00F0CFGVQ>



### 戦え！宇宙キッド 怪獣図鑑 超電子頭脳ズレイノウン編

架空の TV アニメ、宇宙キッドの敵メカ怪獣をカード風で紹介した図鑑。第三巻

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00HRW3ELG>



# 電子パブは 広告を募集 しています。

一枠 55mm x 55mm。  
一回料金 1,000 円  
年契約 10,000 円  
240dpi 以上の解像度、  
cmyk モードの  
psd フォーマットのみ受付け  
ています。  
詳細と受付は  
denpub@1001sec.com へ。

